

[バスケットボール] 関東女子学生

40回記念大会で4位 新人・保坂ベスト8賞

5月11日から21日にかけて行われた第40回関東女子学生バスケットボール選手権記念大会で、4位に入る活躍を見せた。

ドラマに溢れた大会だった。2回戦の日女体大戦では最大20点差をつけられるも、輪島奈美(文3・函館大付属柏稜高)を中心にリズムを奪い返し、見事な逆転勝利を飾った。3回戦の玉川大戦では先制するもリズムをつかめず苦しい戦いとなったが横山悠衣(文2・市立柏高)や相原渚(経営1・実践学園高)が効果的に得点し主導権を奪う。後半にリードを奪われたが、チームワークを生かした攻撃を見せ、2戦連続での逆転勝利。

準決勝、3位決定戦は惜しくも敗れたが、印象に残る戦いを披露。保坂和音(文1・秋田経法大附高)がベスト8賞に選ばれるなど新戦力の台頭が目立つ大会でもあった。秋のリーグ戦では今回以上の活躍を信じている。

また、男子の第55回関東大学バスケットボール選手権は、ベスト16に終わった。

第29回「李相佰杯」横山が活躍

日本と韓国の学生選抜チームが対戦する第29回李相佰杯日韓学生選抜バスケットボール大会が5月27日から6月1日まで、韓国のソウルで行われ、専大からは横山悠衣が出場。第4戦では、チームトップの25得点の活躍を見せた。

(田口 能成・経済2)

[卓球] 春季関東学生

男子は1部に留まる 女子は1部復帰ならず

春季関東学生卓球リーグ戦が5月8日から12日まで代々木第2体育館で行われ、男子が1勝4敗で1部リーグ6位。女子は5戦全勝で2部リーグ優勝を果たした。ともに入れ替え戦に臨んだが、降・昇格はなかった。

男子は初戦で埼玉工大を下したが、残る4試合は連敗。小山武典主将(経済4・柳川高)は「選手の調子に波があり、それをチームとしてカバーすることができなかった」と振り返った。入れ替え戦は大正大と対戦。4ゲーム終わって1勝のみと大きく離されたが、森田翔樹(商1・青森山田高)がストレートで圧勝。続く小川良太(文4・大阪桐蔭高)も勝利し3 | 3に。最終ゲームで小山主将が勝ち星を挙げ、4-3。昭和23年の1部昇格以来58年続く1部の座を守り抜いた。

(橋本 麻未・経済3)

[テニス] 東京有明国際女子オープン

石原・古賀（淳）組が準優勝 関東学生は古賀（愛）がベスト8

6月5日から11日まで、有明テニスの森公園で東京有明国際女子オープンテニストーナメントが行われ、女子ダブルスで石原侗奈主将（文4・静岡市立高）・古賀淳美（経済3・柳川高）組が準優勝を果たした。石原は「決勝まで進めたことで自信になります。まだまだ二人ともレベルアップしなければいけないと感じたので、さらに努力していきたいです」と話した。



関東学生テニストーナメント大会が5月8日から14日まで、昭和の森テニスクラブで行われ、女子シングルスで古賀愛実（文1・筑陽学園高）がベスト8入りし、全日本学生選手権（インカレ）への切符を手にした。

1次予選からの参加は長く厳しかったが、本戦でもシード選手たちにおくすることなく最後まで戦い抜いた。「大学と高校の違いを感じさせられた。インカレでしっかりと戦うために、体力向上のトレーニングを中心に、高い技術を持った相手との対戦に備えて練習に取り組んでいきたい」と語った。

また、5月24日から26日まで、京王テニスクラブで行われた京王オープン2006の女子シングルスで相羽望（文2・秀明英光高）が優勝、大川香奈（文4・富士見丘高）が準優勝、細貝沙織（経済2・水戸商高）が3位となり、女子ダブルスでも大川・相羽組が優勝を遂げた。

（加藤 未希・文2）

[水泳]

日本選手権に出場決定 東日本リーグは8位

6月4日から11日まで、専大生田プールほかで日本選手権予選会が行われた。専大は4勝1敗で予選会を突破し、6月30日からの日本選手権水泳競技大会(水球競技)の出場権を獲得した。



東日本水球リーグ戦(5月6～28日、専大プール)は8位で終えた。

予選リーグAグループ。初戦は中大と対戦。前半を同点で折り返すと、第3、4ピリオドでリードを広げ、9―5で勝ち点3をもぎ取った。

第2戦で強豪・日体倶楽部に敗れると、3、4戦日も落とし、1勝3敗。しかし、最終戦で意地を見せ、山形SH ARKSに23―7と快勝。勝ち点6で中大、プロミネンスと並び、得失点差によりリーグ3位で、順位決定戦へ。5～8位決定戦では全筑波大、日大に連敗した。

右田裕亮主将(商4・由良育英高)は「結果には納得いかない。秋に向けて泳力、守備力を強化していきたい」と語った。

(中西 俊介・ネット情報3)

[アメリカンフットボール] 川崎シリーズ

グリーンマシーン 全勝し秋につなぐ

アメリカンフットボールの春季オープン戦・川崎シリーズが川崎球場で行われ、専大グリーンマシーンは東海大、東大、関東学院大と対戦。いずれも勝利を収め、3戦全勝で川崎シリーズを終えた。

【東海大戦＝5/14】安定した試合運びで終始相手を圧倒。31—10と力の差を見せつけた。

【東大戦＝5/28】前半はリードを許したものの、後半は持ち味である粘り強さを発揮し、失点をゼロに抑えて38—24で試合終了を迎えた。

【関東学院大戦＝6/11】木原耕太郎主将(法4・埼玉栄高)のパントリターンTDなどで加点し、13—7で勝利した。

岡潔監督は「オフェンスは詰めが甘く、力を出し切れていない。ディフェンスもタックルでミスが見られる。試合にはメンタル面も大きく関わるので、強化していきたい」と語った。

(加藤 未希・文2)

[野球] 東都大学野球<2部>

春季リーグは3位

4月1日に開幕した東都大学野球2部春季リーグ戦の全日程が5月23日に終了し、本学の最終成績は勝ち点3の3位だった。

個人部門では、濱塚勝也(商3・星稜高)が打率・419で首位打者を獲得した。

最多優勝回数を誇る東都の盟主が、2部の水に慣れてしまうわけにはいかない。もどかしさも悔しさも、一番知っているのは選手たちのはず。惜しかった、頑張ったのに、はもう聞きたくない。秋季こそ、選手やスタッフをはじめ学生、教員、職員を含めた専修みんなで“1部”へ行こう。

(田口能成・経済2)

アーチェリー

佐伯、山本が東西対抗出場

全日本学生アーチェリー東日本大会が5月27日、宮城県の秋保森林スポーツ公園で行われた。男子の部で佐伯朋哉(経営1・大宮開成高)が8位、山本泰志主将(経営4・大宮開成高)が14位となり、7月の全日本学生東西対抗戦への出場を決めた。

東京学生柔道優勝大会

ベスト16入りで全日本学生出場

5月28日、日本武道館で行われた東京学生柔道優勝大会で、団体でベスト16入りを果たした。

この結果、全日本学生柔道優勝大会(6/24、25=同会場)の出場権を獲得。初戦の金沢大戦に向け、練習に励んでいる。

関東学生剣道選手権

渡邊が全日本学生の出場権

関東学生剣道選手権が5月14日、日本武道館で行われ、渡邊千剛(法4・福岡第一高)、在本悠作(法3・西大寺高)がともに4回戦に進出した。

ブロックごとに出場権獲得の順位が異なり、渡邊が7月の全日本学生剣道選手権の出場権を獲得した。

東都大学準硬式野球

勝ち点3で3位

3月28日から5月23日まで行われた春季リーグ戦で、最終戦まで優勝争いを演じたものの8勝6敗・勝ち点3で3位に終わった。

(木村 太一・法3)

東日本学生相撲選手権

団体9位で全日本大学十和田大会へ

東日本学生相撲選手権が6月4日、両国国技館で行われ、団体で9位となった。この結果、8月16日の全日本大学選抜相撲十和田大会への出場権を獲得した。

《国際大会出場選手》

◇ゴルフ部

横山 倫子 FUJIXEROX日米大学ゴルフ選手権(7月13～15日＝栃木県サンヒルズカントリークラブ)

◇レスリング部

荒木田 進謙 ジュニア世界レスリング選手権(8月29日～9月6日＝グアテマラ・グアテマラ市)

ジュニアアジアレスリング選手権(7月14～22日＝アラブ首長国連邦・アブダビ)

大谷 康太(文1・向上高)ジュニアアジアレスリング選手権

平川 臣一(商1・三井高)ジュニアアジアレスリング選手権

矢野 将章 ジュニアアジアレスリング選手権